

碎石散布による江戸前アサリの復活

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 允昭, 南部, 亮元, 桑原, 久実 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009178

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



碎石散布による江戸前アサリの復活

水産土木工学部

研究の背景・目的

近年、日本全国でアサリの漁獲量が減少しています。アサリ資源の厳しい現状に対して、三重県などでアサリ漁場に碎石を散布することで、稚貝の定着を促進し、漁獲量の増大につながる事例が報告されています(本誌 No.06)。この例にならって、アサリの漁獲量減少が著しい船橋市沖では、江戸前のアサリ資源復活のために碎石散布による漁場造成が行われました(図 1)。

研究成果

船橋市沖で碎石造成地とその周囲でアサリの分布調査を行い、碎石散布のアサリ資源への効果を検証しました。碎石散布前の 2017 年 6 月から散布後の 2018 年 5 月までの分布調査により、碎石区(中央粒径:1.86 mm)で周囲の対照区(中央粒径:0.19 mm)に比べてアサリの密度が大きく上昇していることが確認できました(図 2)。また、総重量も碎石区で大きくなっており、十分に成長していることもわかりました。

波及効果

船橋市沖では本成果を踏まえ、また新たに別のところに碎石区が作られることになりました。このような取り組みを広げることにより、数十年前は日本有数の大産地であった東京湾奥の「江戸前アサリ」の復活が期待されます。

(本研究は委託事業「船橋地区における碎石造成によるアサリの定着促進の検証調査」と水産庁基盤整備調査委託事業「アサリ漁業復活のための大規模漁場整備技術・維持管理手法の開発」の一環として実施しました。)



図 1 碎石(上図)とアサリ漁場で実施された碎石散布(下図)

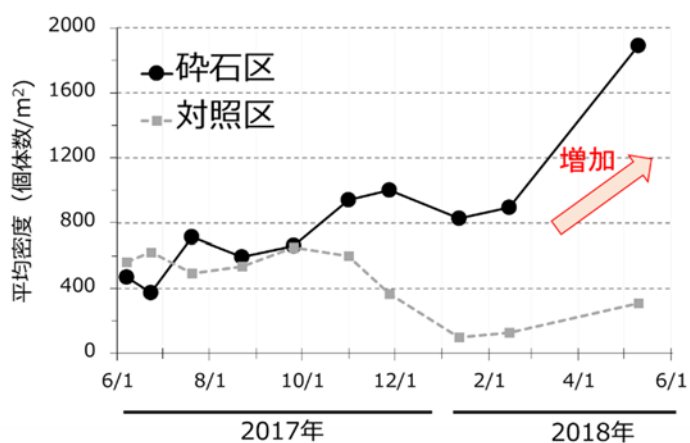


図 2 船橋市沖のアサリ密度の時間変化

(生物環境グループ: 佐藤允昭、南部亮元、水産土木工学部: 桑原久実)